

長崎県文化財調査報告書 第100集

くれいしぱる
碑石原遺跡

—県道愛野～島原線改良工事に伴う
埋藏文化財緊急発掘調査報告書—

1991

長崎県教育委員会

序 文

この報告書は一般県道愛野～島原線改良工事に先立って、昭和62年11月に県教育委員会が実施した島原市にある疊石原遺跡の緊急発掘調査の成果をまとめたものです。

埋蔵文化財は祖先から受け継いだ貴重な文化遺産であり、後世に引き継ぐことが私たちの責務であります。本書を通して埋蔵文化財についての理解を深めていただくとともに、本書が学術研究に役立つことを願ってやみません。

最後に、発掘調査から本報告書の刊行に至るまで、多くの方々の御理解と御協力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

平成3年3月

長崎県教育委員会教育長 吉次邦夫

例　　言

1. 本書は県道愛野～島原線改良工事に伴う礫石原遺跡緊急発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は長崎県道路建設課の要請を受け、長崎県教育委員会が実施した。調査員は下記のとおりである。

副島 和明	長崎県教育庁文化課	主任文化財保護主事
町田 利幸	タ	文化財保護主事
小野ゆかり	タ	文化財調査員

3. 調査期間、所在地は次のとおりである。

範囲確認調査：平成元年11月28日～平成元年12月2日

緊急発掘調査：平成2年5月28日～平成2年6月13日

所 在 地：長崎県島原市礫石原甲2101番地外

4. 本書は分担執筆し、I・II-1, 2・IV-1, 3-(2), 4, Vは副島、III・IV-2, 3-(1), Vの土器は町田が担当した。

5. 遺物の実測・トレースは町田、小野、渡辺由里子(県文化財調査員)
写真撮影は副島が行った。

6. 本書の編集は副島、町田が担当した。

7. 出土遺物は長崎県教育庁文化課で保管している。

本文目次

I. 調査に至る経緯	1
II. 調査経過	4
1. 分布調査	4
2. 範囲確認調査	4
3. 緊急発掘調査	4
III. 遺跡の地理的・歴史的環境	5
IV. 調査	11
1. 調査概要	11
2. 層位	12
3. 出土遺物	12
(1) 土器	12
(2) 石器	20
4. 遺物の出土状況	26
V. まとめ	34

挿図目次

第1図 碠石原遺跡位置図	1
第2図 遺跡周辺地形図	3
第3図 島原市周辺地形分類図	5
第4図 島原市の遺跡地図	9・10
第5図 調査区配置図	11
第6図 土層図	13・14
第7図 出土土器 (1) (1/2)	17
第8図 出土土器 (2) (1/2)	18
第9図 出土土器 (3) (1/2)	19

第10図 出土石器（1）・第Ⅲ層・第Ⅱ層出土	21
第11図 出土石器（2）・第Ⅲ層・第Ⅱ層出土	22
第12図 出土石器（3）・第Ⅱ層出土	23
第13図 出土石器（4）・表土層出土	25
第14図 遺物分布図（第Ⅲ層）	28
第15図 遺物分布図（第Ⅱ層）	29
第16図 器種別遺物分布図・1～7区第Ⅱ層	30
第17図 器種別遺物分布図・8～10区第Ⅱ層・第Ⅲ層	31
第18図 石材別遺物分布図・1～7区第Ⅲ層	32
第19図 石材別遺物分布図・8～10区第Ⅱ層・第Ⅲ層	33

表 目 次

表1 遺跡地名表（1）	7
表2 遺跡地名表（2）	8
表3 出土石器の石材別・層位別一覧表	35

図 版 目 次

図版1 調査状況	39
図版2 範囲確認調査（遺物出土状況・土層堆積状況）	40
図版3 土層堆積状況	41
図版4 出土土器（1）	42
図版5 出土土器（2）	43
図版6 出土土器（3）	44
図版7 出土石器（1）	45
図版8 出土石器（2）	46
図版9 出土石器（3）	47
図版10 調査風景	48

I 調査に至る経緯

平成2年度に、疊石原遺跡内を南北に走る県道愛野～島原線改良工事が島原振興局で計画された。

工事は、この付近一帯は大雨のたびに側溝から雨水が溢れ、県道より低位位置にある畑地に被害を与えるために、道路下に暗渠を埋設して、排水を河川に流す方途で、長さ120m×幅2mの暗渠敷設工事計画であった。

当該地域一帯は、九州地方において縄文時代晩期の標式的な遺跡として著名で、分布範囲も島原市と有明町にまたがり、約150haにおよぶ広大な遺跡である。



第1図 疊石原遺跡位置図

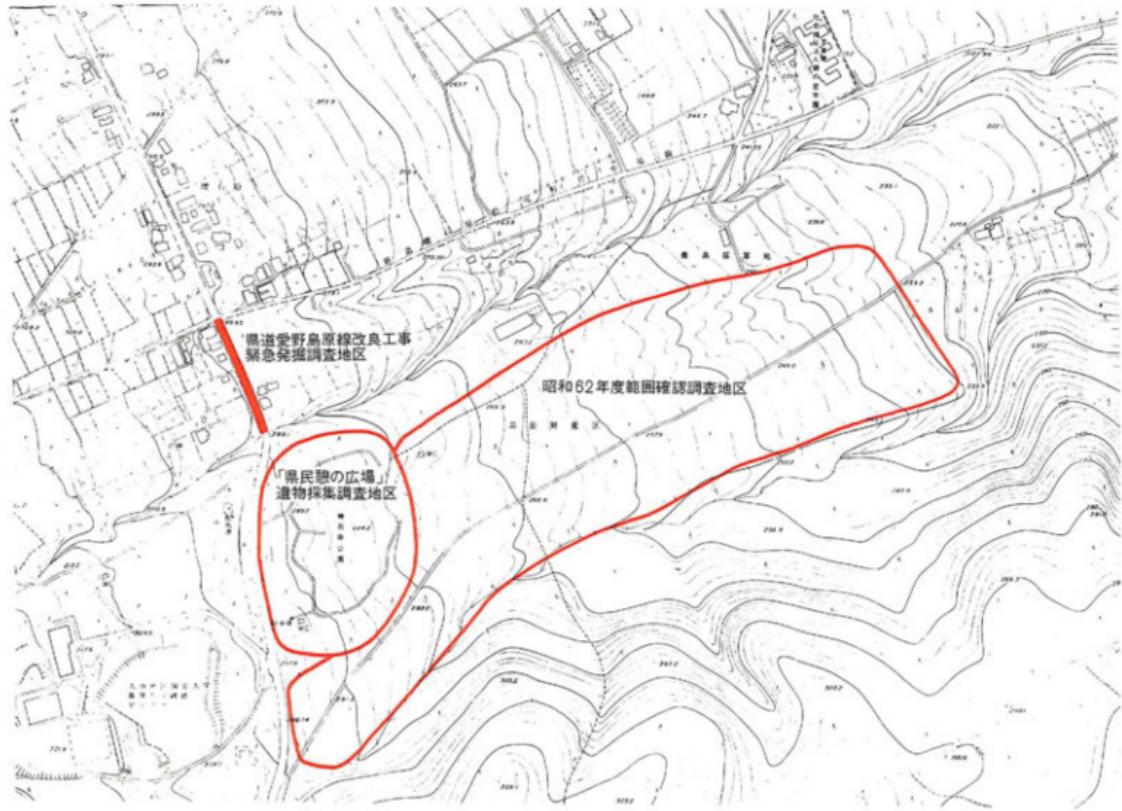
- 昭和30年の島原市教育委員会、三会中学校による発掘調査以来、十数次の調査が実施してきた。
- 昭和30年代の調査 島原市教育委員会（1～3次）、三会中学校、島原高校、日本考古学協会西九州総合調査特別委員会（2次）による発掘調査。
- 昭和40年代の調査 「青少年野外活動広場」施設建設に伴う分布調査を県教育委員会が実施。
- 昭和50年代の調査 「九州地区国立大学島原共同センター」施設改良工事に伴う分布調査を県教育委員会が実施。
- 昭和60年代の調査 「県民憩の広場」造成工事現場での遺物採集調査を県教育委員会が実施。
- 昭和62年8月～9月に三会財産区（約14ha）の範囲確認調査を島原市教育委員会が実施。昭和63年度に調査報告書刊行。
- 平成元年度の調査 牛舎建設工事（個人、3,256m²）で工事立会を島原市教育委員会、県教育委員会が実施。
- 豚舎建設工事（個人、13,109m²）で工事立会を島原市教育委員会へ指導（未着工）。
- 当該工事関係で県教育委員会は島原振興局と遺跡の取扱いについて、協議を行い、分布調査、範囲確認調査（20m²）を実施。
- 礫石原松尾停車場線改良工事関係（長さ285m、1,309m²）で工事立会を島原市教育委員会が実施。
- 平成2年度の調査 当該工事関係で緊急発掘調査（340m²）を実施。
- 礫石原松尾停車場線改良工事関係（長さ363m、2,214m²）で工事立会を島原市教育委員会が実施。
- 鶴舎建設工事（9,900m²）に伴う範囲確認調査（40m²）を島原市文化財保護協会が実施。

以上の調査結果で、縄文時代早期～晩期の墳墓群（合口甕棺、単式甕棺、土壙墓等）や多数の遺物（各時期の土器、石器類、装身具類）が発見された。

また、櫻の圧痕が付いた縄文時代晩期の土器片および農耕具に利用されたと考えられる扁平打製石斧等の遺物の出土から、縄文時代晩期の農耕（陸稟）問題を論ずる上で重要な遺跡の一つとなった。

遺跡は、先土器時代から縄文時代にかけての複合遺跡で、特に縄文時代晩期の集落跡を形成していたことも明らかになった。

第2図 遺跡周辺地形図



II 調査経過

1. 分布調査

縄文時代晚期の疎石原遺跡のほぼ中央部分を走る一般県道愛野～島原線改良工事（暗渠敷設工事）が計画されたため、平成元年11月に分布調査を実施した。

その結果、工事計画部分にも道路工事で破壊されずに包含層が残されている可能性が推察された。さらに、当該工事地点に隣接する島原市三会財産区（第2回参照）の範囲確認調査や周辺の宅地および畠地から遺物が多数採集されている箇所でもあった。

2. 範囲確認調査

分布調査の結果に基づいて、県文化課と島原振興局道路課と協議し、範囲確認調査を実施した。

調査は、平成元年11月28日～同年12月2日まで、 $2\text{ m} \times 2\text{ m}$ の試掘場TP-1～5の5箇所を設定して、 20 m^2 について実施した。

範囲確認調査の結果、4箇所の試掘場で縄文時代晚期の遺物が出土し、工事計画範囲内の 250 m^2 について、遺物が分布することが明らかになった。

3. 緊急発掘調査

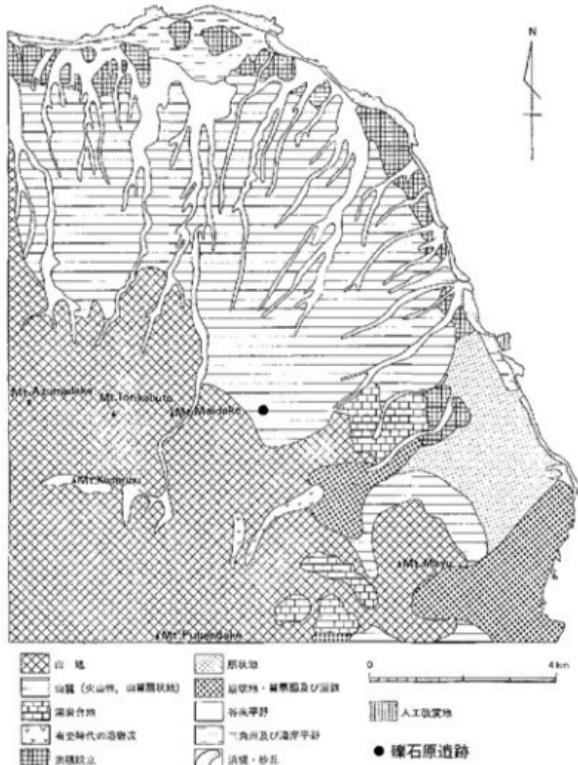
範囲確認調査の結果を基に、再度協議し、緊急発掘調査を実施し、記録保存を図った。

調査は、平成2年5月28日～同年6月13日(13日間)まで、調査面積 340 m^2 について実施した。

III 遺跡の地理的・歴史的環境

遺跡の所在する島原市は、島原半島東部にあり雲仙火山体の主峰普賢岳(1359.3m)^{注1)}、国見岳・妙見岳・野岳によって西部の小浜町、国見町と接し、北部を金洗川で有明町、南部を水無川によって深江町とに分ける。

島原市の表層地質は、北部の有明側から遠跡周辺に雲仙基底火山碎屑岩の火山疊、砂（第四紀更新世）が覆い、この南側には1792年（寛政4）の雲仙火山活動とともになうる溶岩流を形成している。また市内南部は



第3図 島原市周辺地形分類図

上述の火山活動によって崩山が崩壊し、14,500人以上の死者を出したといわれる。

土壤は、北部に黒ボク・淡黒ボクが堆積している。一帯は畑作を中心とした農業であるが、中尾川周辺の扇状地標高50m-10mおよび安徳の海岸部においては水田耕作も営まれている。この外は、国立公園内にあたるため、針葉樹林・広葉樹林となっている。

遺跡は、現在64箇所が周知され、長貫A遺跡においてハンドアックスを探集したと報告があるが、確認はしていない。

縄文時代では、本報告の疎石原の外に油堀・立野・江里・千木本町および安徳・三会地区の海岸部に遺物の分布がある。このうち発掘調査が実施されているのは、疎石原遺跡^{註1}、肥賀太郎遺跡^{註2}、原口A遺跡（有明町側）^{註3}がある。また、三会下町海中遺跡、中南遺跡では古田正隆氏が採集した遺物の報告がなされている。

弥生時代には、景華園の支石墓、原口、寺中、中野、稗田原といった三会地区周辺の台地に遺跡が集中している。

古墳時代では、長塚、小塚、籠塚、鬼の家、大塚、人塚等があるが、遺構を確認できるものはなく、実態については不明確である。

中世には、安徳城跡、小山館跡、寺中城、丸尾城が散見されるが、未調査のため性格等詳細については不明である。

近世には、マダレイナの墓（キリストン墓）、森岳城跡（鳥原城）、旧島原藩薬園跡等があげられる。（第3・4図）

註1 長崎県「雲仙の自然と歴史」国立公園「雲仙」指定50周年記念 長崎県 1984

註2 長崎県「土地分類基本調査」長崎県南部地域総合開発地域 島原・荒尾5万分の1 土地調査 長崎県 1976

註3 長崎県教育委員会「島原の歴史」藩制編 島原市役所 1976

註4 長崎県教育委員会「長崎県埋蔵文化財包蔵地カード」長崎県教育委員会 1981

註5 古田正隆「疎石原遺跡」—縄文晩期農耕生産文化の姿相— 百人委員会 埋蔵文化財報告第7集 百人委員会 1977

註6 島原市教育委員会「疎石原遺跡」島原市文化財調査報告書第4集 長崎県島原市教育委員会 1988

表1 遺跡地名表(1)

番号	名 称	種 別	時 代	所 在 地
1	景 草 国 遺 路	墓 地	弥 生	(三会) 中野町高城元
2	上 中 野 遺 路	散 布 地	弥 生・古墳	(〃) 上中野、野畑、久保
3	原 口 B 遺 路	*	*	(〃) 原口町星敷高野、北浜貫
4	原 口 A 遺 路	*	绳 文・弥 生	(〃) 尖石、原口ト、堂の坂、萬葉沢、原口沢
5	下 油 堀 遺 路	*	*	(〃) 油堀町下油堀
6	上 油 堀 遺 路	*	绳 文	(〃) 上油堀(一部有明町にかかる)
7	礪 石 原 遺 路	墓 塚・墓塚・祭祀跡	*	(〃) 磨石原町
8	礪 石 原 古 墓	墓	平 安	(〃) 磨石原町甲1201 49
9	長 貫 A 遺 路	散 布 地	先 上 器・绳文	(〃) 長貫町櫻高野
10	長 貫 B 遺 路	*	绳 文・弥 生	(〃) 仁田平、津吹町上大高野
11	寺 中 A 遺 路	*	弥 生	(〃) 寺中町大高野別れ道
12	寺 中 B 遺 路	*	弥 生・古墳	(〃) 尾崎、湯の尻、内田
13	寺 中 城	城 路	中 世	(〃) 城の鼻
14	中 野 川 遺 路	散 布 地	弥 生	(〃) 中野町中野川床
15	西 川 遺 路	*	*	(〃) 他の甲町2619(大津駒馬煙)
16	三 会 下 町 海 中 遺 路	海 底 遺 路	绳 文・弥 生	(〃) 下町(海中千瀬)
17	酒 中 遺 路	散 布 地	弥 生・中世	(〃) 中原町、龜の甲町、源手水町
18	三 会 中 学 校 遺 路	*	绳 文	(〃) 下宮町木崎、出の川町金旁寺
19	津 吹 遺 路	*	绳 文・弥 生	(〃) 津吹町三段烟
20	鬼 の 家 古 墳 (?)	古 墳 (?)	古 墳	(〃) 出の川町出の上(通称鬼の家)
21	人 塚 古 墳	*	*	(〃) 人塚
22	大 塚 下 遺 路	散 布 地	中 世	(〃) 大塚下
23	南 捕 沢 遺 路	*	弥 生	(〃) 南捕沢
24	大 塚 後 遺 路	*	绳 文・弥 生	(〃) 大塚後
25	民 舞 遺 路	*	绳 文	(〃) 広高野町尻無
26	大 タ ブ 沢 遺 路	*	绳 文・中世	(〃) 大タブ沢
27	弓 弦 遺 路	*	绳 文	(杉谷) 立野町弓弦
28	立 野 遺 路	*	*	(〃) 立野
29	坪 流 遺 路	*	*	(〃) 西町坪流
30	マ ダ レイ ナ の 墓	キ リ シ タ ン 墓	近 世	(〃) 山寺町山寺
31	山 峠 遺 路	散 布 地	弥 生・古 墳	(〃) 山峠
32	御 田 原 遺 路	*	绳 文・弥生・中世	(三会) 御田原町
33	下 富 遺 路	*	*	(〃) 下富町園田、焼木
34	钉 原 遺 路	*	弥 生・古 墳	(杉谷) 宇土町钉原
35	平 の 山 A 遺 路	*	绳 文	(〃) 北子木木町平の山
36	肥 賀 太 郎 遺 路	*	*	(〃) 肥賀太郎
37	平 の 山 B 遺 路	*	*	(〃) 平の山
38	丸 尾 城	城	中 世	(〃) 本光寺町丸尾

表2 遺跡地名表(2)

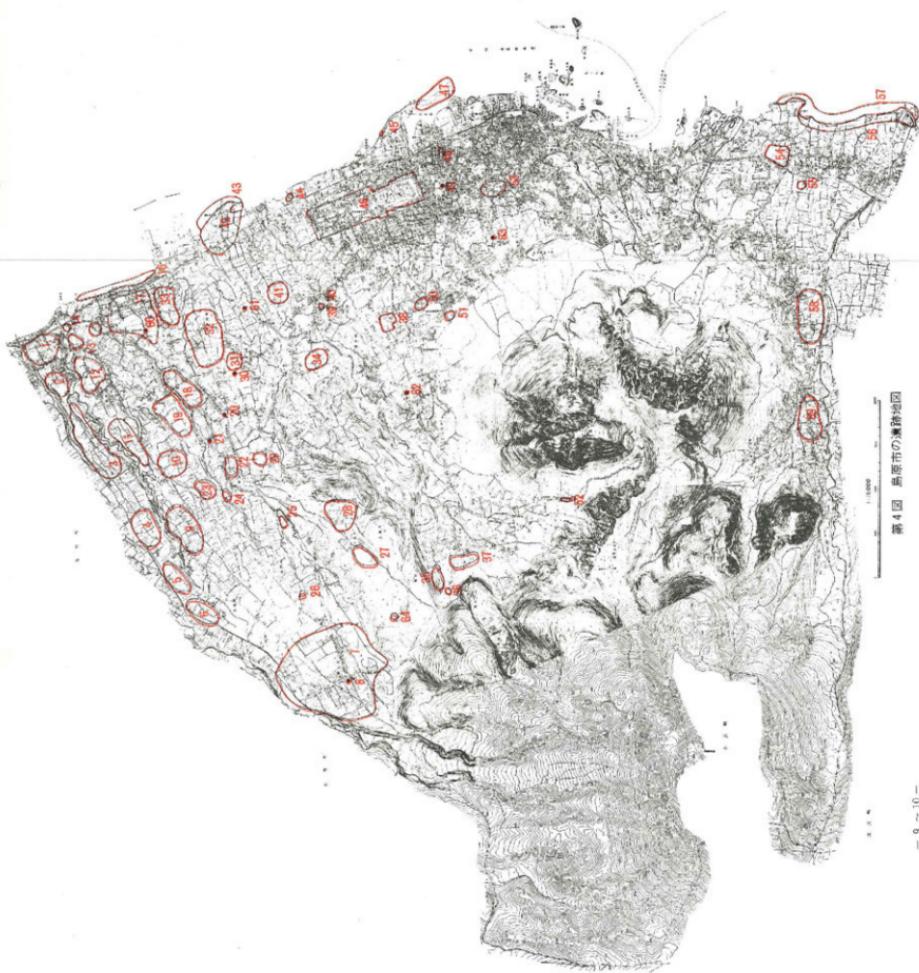
番号	名 称	種 別	時 代	所 在 地
39	熊野神社遺跡	製鉄遺跡	平安	(杉谷)原町熊野神社内
40	熊野神社墓跡	墓	近世	()
41	道田遺跡	墓	地 跡	生()本町道田
42	沖田遺跡	散布地	弥生・古墳	前浜町沖田
43	沖田海中遺跡	海底遺跡	*	*
44	沖田廻遺跡	散布地(祭祀跡)	古 墓	二本木町沖田廻
45	長浜台場	廻 台	跡	近世 長浜町
46	森岳城	城	*	城内町
47	大手浜遺跡	散布地	繩文…近世	高島町大手浜
48	浜の城	城	跡	近世 弁大町
49	崇台寺キリシタン墓	キリシタン墓	*	萩原町1丁目1224番地崇台寺
50	小山館跡	新跡・トリデ路	中世	小山町
51	旧鳥原蘿蔔園跡	蘿 蔔	跡	近世 小山町燒野
52	矢櫃遺跡	散布地	繩文	(杉谷)南千木町矢櫃
53	上の原遺跡	*	弥 生	上の原町、白土町
54	安徳城	城	跡	中世 (安中)南端山町
55	上馬場遺跡	墳	墓 古	墳 () 北安堵町上馬場
56	中南海中遺跡	海底遺跡	繩文・弥生・古墳	() 安堵町中南
57	中南遺跡	散布地	*	()
58	中木場遺跡	*	弥生～中世	() 白谷町、天神光町
59	南上木場遺跡	*	繩文・弥生	() 南上木場町
60	大塚古墳	前方後円墳	古 墳	(三会)中原町大塚
61	長塚古墳	古墳(?)	*	(杉谷)山寺町長塚
62	小塚古墳	*	*	() 六ツ木町辰ノ元
63	篠塚古墳	*	*	上の原町篠塚
64	馬渡遺跡	散布地	繩文	立野町内1896-20、23

註7 長崎県教育委員会『長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅲ』「肥賀太郎遺跡」
長崎県教育委員会 1990

註8 藤田和裕・町田利幸『上一野・原口A遺跡』「原口A遺跡」 有明町文化財調査報告書 第8集 長崎県有明町教育委員会 1990

註9 古田正隆『島原市の海中下渴遺跡(図録)』一島原市三会下町・安中中南・大手浜・長浜 一百人委員会 埋蔵文化財報告第2集 一百人委員会刊 1974

第4図 烏原市の震源地図



IV 調 査

1. 調査概要

遺跡は、温泉岳の北東の火山性山麓扇状地が発達した標高230～300m程の緩やかに傾斜を呈す部分に立地する。

分布範囲が広大なため、数次の発掘調査等にもかかわらず、詳細な遺跡の性格・規模等については明確ではない。

調査は、平成2年5月28日～同年6月13日まで、340m²について実施した。(当初は、240m²の調査予定であったが、遺物の出土範囲が拡がった為に拡張した)

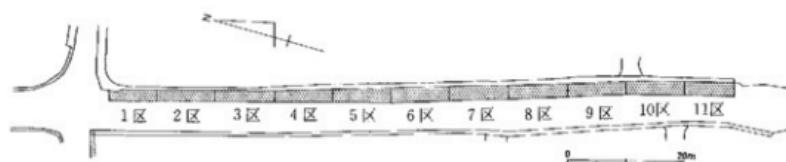
調査区は、当該道路工事範囲を南北に長さ10m×東西3m単位に区分し、北側から1～11の調査区番号を付けた。ただ、調査区の東西の幅は掘削の関係上、2.4～3mで実施した。

6～8調査区の第V層内に拳大～頭大位の礫が集中して検出された。この礫は、ほとんどが転石した円礫で、人為的に集石され、何らかの遺構として使用されたのではなく、自然的な要因によるものと考えられる。

この地域一帯は、戦後に開拓され、その当時より開拓地は疊石原と呼ばれる程に礫が多い地域である。

3、4調査区で、開拓時における道路と考えられる石組や側溝が検出された。これらの道路工事で、縄文時代晩期の包含層が部分的に破壊されていた。

今回の調査範囲では、縄文時代の遺構は検出されなかった。



第5図 調査区配置図

2. 層位

調査区における土層状況は、11区から6区にかけてほぼ平坦な堆積状況であるが、5区から1区については旧地表面が傾斜しており、Ia層上部には流れ込みと見られる土が50cm以上堆積していた。これは、雨天時に雨水の流路となるため、近年に排水のための石組側溝が設けてあった。

層序は、既存の県道183号線のアスファルト道路（I層）、簡易舗装道路（I'層）、砂利敷道路（I''層：旧開拓道路）の層が旧地表面より約1.1m嵩あげされていた。

以下基本層はIa～V層を確認している。（第6図）

Ia層：暗茶黒色土（3～1区にあり、やや綺まりがある）。

II層：黒色土の火山灰が堆積し遺物は主にこの層から出土している。

III層：黄色味が薄いIIIa層（暗灰黄色）と黄色味が濃いIIIb層（黄褐色）が認められたが、全体的には昭和62年調査区と比較してやや黄色味に渦り（黒ずんだ色調）があった。また、11区～9区にかけては、IV層に似かよる暗黄茶色を呈したIIIc層が堆積していた。遺物は、IIIa・IIIb層から17点出土があった。

IV層：バミスを含んだ層で、茶色味が濃いIV層（暗茶色）と黒色が濃いIVb層（淡黒色）とがあった。遺物の出土はない。

V層：灰黄褐色疊層で1区の掘り下げによって確認したが、遺物の出土はなかった。

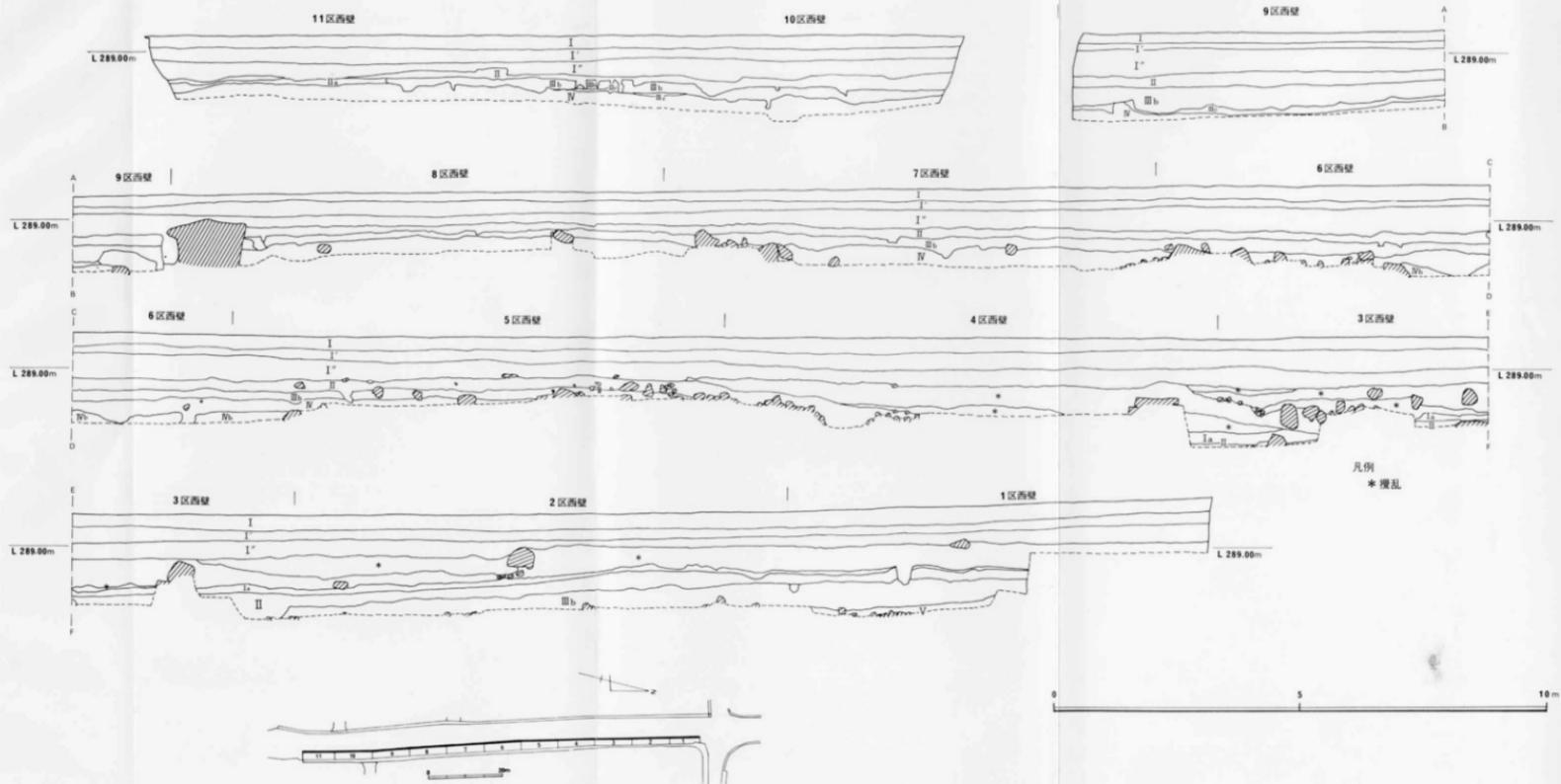
註1 6頁の註6に同じ。

3. 出土遺物

（1）土器

出土土器は、445点にのぼるが、図化したのは42点である。精製と粗製の土器があり、出土傾向としては粗製土器が90%を超えている。

口縁部（第7・8図） 1. 内外面ともに横方向によく磨き、口縁部で外反ぎみ、口唇部が平坦である。胎土に黄褐色の緻密な粘土を使用。2. 内面に1条の沈線をめぐらし、口縁部に丸味をもちナデ整形を行う。胎土やや粗く暗灰黄色を呈する。3. 内外面ともによく磨きがかかり、外面に1条の沈線を付す。口縁部は平坦であるが、口唇部は丸味をもつ。胎土は緻密な粘土を用い、色調は暗黄灰色を呈する。4. やや摩耗した感がある。内面口縁



第6図 土層図

部に段差があり、外面には浅い沈線が入る。5. 外面の口縁部を破損するが、内面の口縁部がかろうじて残り、口唇部端は平坦となる。胎土は灰黒色の緻密な粘土を使用。6. 粗い胎土で色調は灰黄色を呈する。外面に沈線を2条めぐらす。7. 内外面ともに磨きをかける。口縁端部に浅い沈線を付す。肩部が屈曲する。胎土やや粗く暗黄褐色を呈する。口唇部は平坦をなす。8. 口縁部で外反する資料で外面に1条の沈線を施す。胎土は灰黒色を呈し、やや粗い。9. 口縁部に両端より指による押えでつまみあげた、リボン状の突起を付している。10. 粗製浅鉢で、内面整形時の条痕が残る。外面はナデ整形を施す。11. 外面は条痕を残し、内面は条痕をナデ消す。口唇部は丸のみ状を呈する。胎土は暗黄褐色を呈す。12. 外面は整形時の条痕を残し、内面は条痕をナデ消す。口唇部に刻目をめぐらす。胎土は暗黄褐色を呈する。13. 浅い沈線が2条あり、1条は先端の丸い工具によって線引きし、他の1条は先端が鋭利な工具を用いている。外面ナデ、内面粗いナデを施し、口唇部は平坦となる。14. これも13と同様に浅い沈線を付す。胎土の中心部分は黒色を呈し、内外面付近は淡黄赤褐色を呈す。口唇部は尖りぎみに整形。15. 外面は調整時の条痕あり、内面ナデ調整行う。口唇部は平坦である。胎土は暗黄褐色を呈する。16. 口唇部は尖りぎみで、外面条痕による調整を行い内面ナデ整形。胎土の色調は暗黄灰色を呈する。17. 外面には条痕を施し、内面はナデ調整。口唇部は丸味をもつ。胎土に2mm程度の長石が入るが、焼成良好である。18. 口唇部に丸味をもち、浅い沈線が入る。胎土やや粗く色調は黄褐色を呈する。19. 口縁部は外反ぎみで不明瞭な沈線が2条残る。内面はナデ調整し、胎土に緻密な粘土を遮別し淡赤黄色を呈する。20. 口縁部端で外反し、外面は条痕調整し、内面は条痕をナデ消す。胎土の色調は内外面付近は赤褐色を呈し、中心部は黒色である。21. 口縁部端が外反し、外面は条痕調整で、内面はナデ施す。胎土やや粗く色調は黄赤色を呈する。

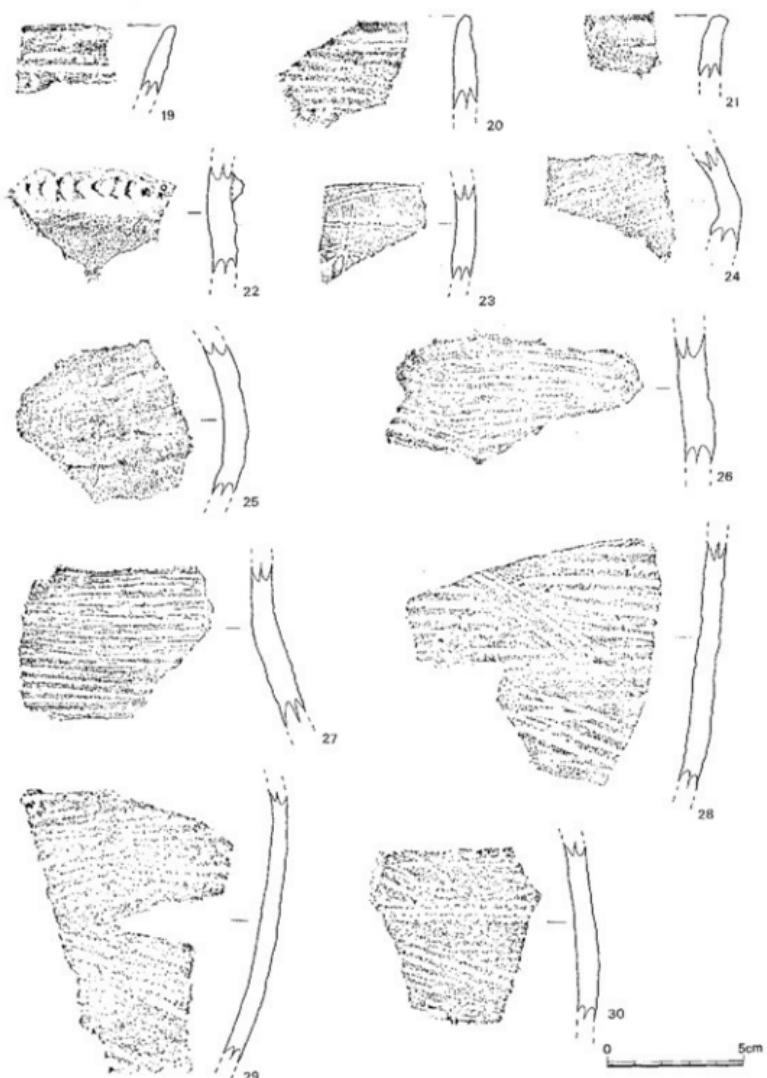
胸 部 22. 刻目突帯のある資料で、刻目は斜め片側より切り込みをいれいる。小片のため全形不明であるが、リボン状突帯から移行する形態と思われる。23. 細密な粘土を用いて焼成している。外面は鋭利な工具によって横・縱方向より沈線を引く。調整は内外面をナデ、胎土は暗黄褐色を呈する。24. 「く」の字形に屈曲する胸部で、外面はナデ調整し、内面は粗い整形施す。胎土の色調は淡黄色を呈する。25. 膨らみをもつ

胸部片で、1 cm 幅のヘラ状工具で外面を整形。内面は粗い調整で終える。胎土に長石・雲母・石英粒が混じり色調淡赤黄色をなす。26. 外面横方向に条痕調整し、内面ナデ整形を行う。胎土は緻密な粘土を使用し、色調暗灰色を呈する。27. 肩部から胸部に移行する部位で、外面条痕が明確に残る。内面は粗い整形で、胎土に長石・安山岩粒が多く混ざり暗灰色を呈する。28. 内外面とも横方向の条痕調整後、斜めからの整形を重ねている。胎土はやや粗く、色調は外面が暗黄褐色、内面が黒色を呈する。29. 横方向の粗い条痕を外面に残し、内面斜よりきめ細かな潰しを施す。胎土は28と同様、外面に煤の付着がある。30. 斜め方向から条痕を付し、内面潰しを施す。胎土には安山岩・長石粒が混じり、色調は暗黄褐色を呈する。31. 外面を粗い整形、内面やや甘い潰しを施す。外面に煤の付着がある。上端部の輪積部分より破損する。胎土に長石粒を多く含み、暗黄灰色を呈する。32. 外面に煤が付着、横方向の条痕調整を行う。内面にきめ細かな潰しを施す。胎土やや粗く長石粒が混じり、色調は暗赤褐色を呈する。33. 横・綫方向の条痕調整で内面やや凹凸のある潰しをしている。比較的器壁の薄い資料である。胎土やや粗く、淡黄褐色を呈する。34. 外面に煤の付着があり、調整痕は不明瞭である。内面潰しをよく施す。胎土は比較的緻密で淡黄褐色を呈する。35. 横方向の条痕調整が外面にあり、内面は緻密な潰しを行っている。胎土やや粗く暗赤褐色をなす。36. 粗い条痕整形が外面に残り、内面は粗いナデ整形を施す。胎土に砂粒が多くまざり脆い。37. 外面横方向の条痕調整がされ、内面は潰しによる整形。胎土やや粗く石英・安山岩粒が多く混入し、暗黄灰色をなす。

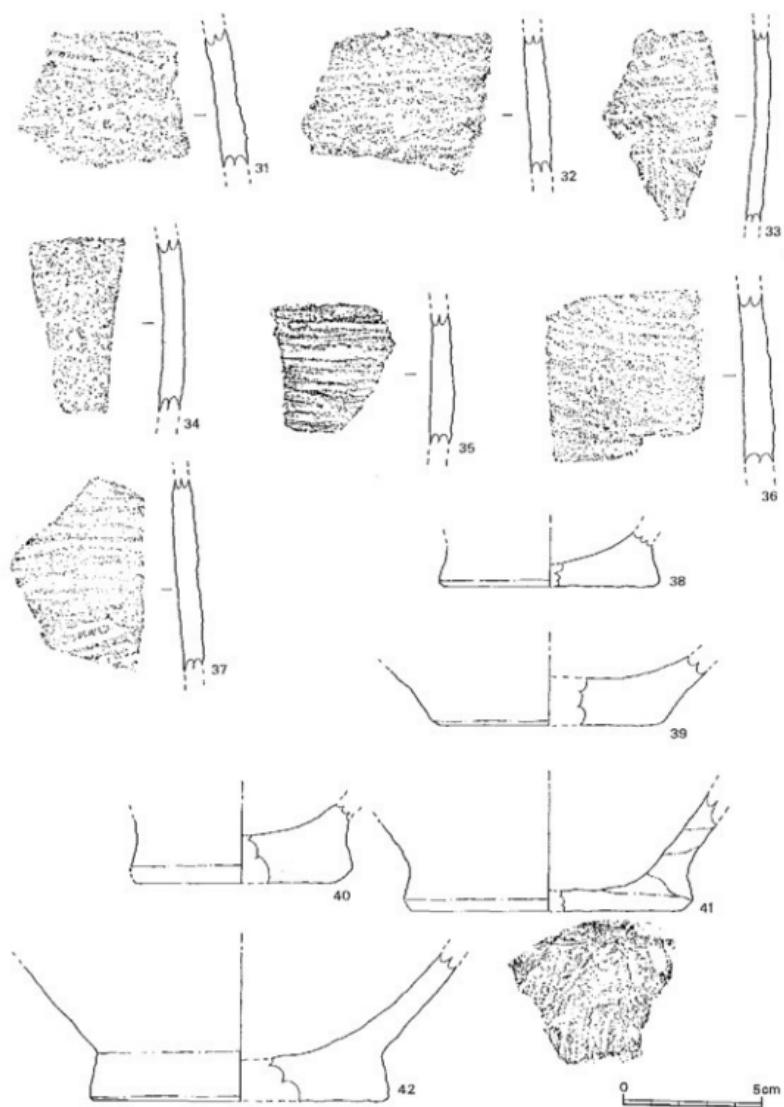
底 部 (第9図) 38. 円盤状の平坦な貼付底である。外面に条痕調整をナデ消し、内面はやや粗いナデ整形。胎土やや粗く石英・長石粒がめだつ。39. 底部端の張りだしがなく、そのまま胸部へ移行する形態である。指による整形痕が残る。胎土やや粗く、暗赤褐色を呈する。40. 砂粒が多く混入しており脆い。外面の底にわずかな潰しの痕跡が残る。内面は風化して肌があれている。胎土は39と同様である。41. 底の外面条痕を潰している。胸部への移行部分は粗いナデ整形し、内面は比較的良好なナデを行う。胎土やや粗く、石英・長石が混入し、色調は暗黄褐色をなす。42. 胸部への移行部分に綫方向の条痕調整をなし内面粗いナデ整形である。胎土に長石 5 mm 程度が数点混入し、暗黄灰色を呈する。



第7図 出土土器 (1) (1/2)



第8図 出土土器 (2) (1/2)



第9図 出土土器 (3) (1/2)

(2) 石器　　縄文時代晩期の石器は、第Ⅲ層に15点、第Ⅱ層に111点、表土層に400点の総数526点が出土した。

第Ⅲ層出土石器

石錐　　4は、先端部から一側縁部および両脚部分を欠損している。基部に浅い抉りをもち、三角形状を呈す。黒曜石A製。
(第10図-4)

使用痕ある剝片　　横長剝片を利用し、両側縁部に刃こぼれが著しい。黒曜石A製。素材
(第10図-1) の打面は自然面である。

敲石　　安山岩の拳大位の円礫を利用したもので、先端部に敲打痕をもつ。重
(第11図-15) さ382g。

剝片　　不定形の分厚い剝片で、先端、側縁部に自然面を残し、上下両設端より
(第10図-2) の剥離痕が残る。黒曜石A製。素材打面は調整されている。

第Ⅱ層出土石器

石錐　　3は完形で、抉りをもち、器表裏面に入念な2次加工を施し、三角形
(第10図-3) 状を呈す。黒曜石A製。

搔器・削器　　6は搔器で、胴部を欠損している。横長剝片を利用し、上下端に器表面および主要剥離面側より交互に粗い調整加工を施している。
(第10図-5, 6)

5は削器で、一側縁部に抉入状に刃部を作り出し、他縁には使用痕が顕著に認められる。器表面、先端部に自然面を残し、素材打面は自然面である。黒曜石A製。

使用痕ある剝片　　8-10, 12, 16は不定形剝片、7, 11は綫長剝片を利用している。いずれも両側縁あるいは一側縁部に刃こぼれが顕著に認められる。素材打面は自然面(7, 8, 10, 12, 16)と調整打面(7)である。利用石材は黒曜石A製(7, 8, 10, 12), B製(11), C製(16), その他の黒曜石製(9)である。
(第10図-7~12)
(第12図-16)

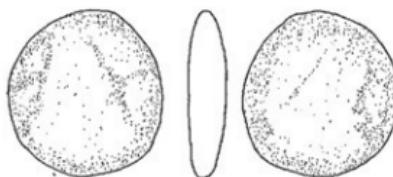
磨石　　13は扁平な玄武岩の円礫を利用し、径7.5cm程を呈す。表面は磨かれ
(第11図-13, 14) て、扁平になり、一部に2次破損が認められる。重さ28g。



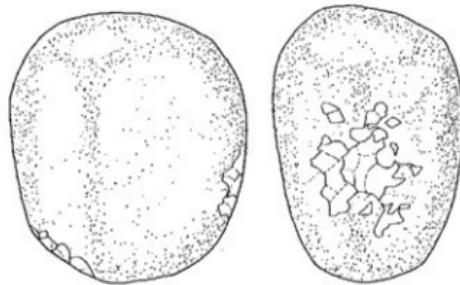
第10図 出土石器(1)・第Ⅲ層・第Ⅱ層出土



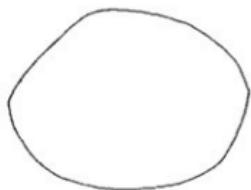
13



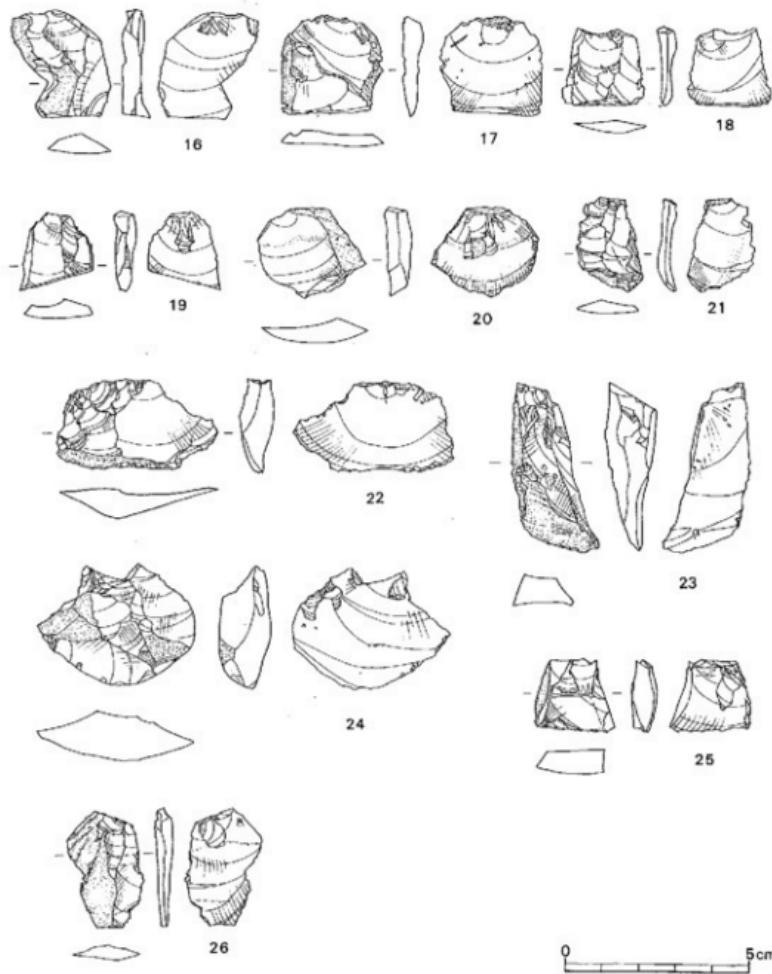
14



15



第11図 出土石器(2)・第Ⅲ層・第Ⅱ層出土



第12図 出土石器(3)・第II層出土

14は扁平な安山岩の礫を利用した径4.5cm程の磨石で、表裏面を磨いている。重さ94g。この磨石は縄文時代晩期の遺跡に出土頻度が高い石器である。

剝片 17, 18, 21, 25, 26は不定形剝片、20, 22, 24は横長剝片、19, 23は
(第12図-17-26) 縦長剝片で、19は折断剝片である。素材打面は自然面のもの(17, 19~
22), 調整打面のもの(25, 26), 平坦打面のもの(18), 線状打面のもの
(24)である。利用石材はすべて黒曜石A製である。

表土出土の石器

石錐 不定形剝片を利用し、表裏面に縁辺より粗い加工を施し整え、刃部は
(第13図-27) 入念な加工で先端部分が尖るように作り出している。表裏共に第一次剝
片面が残る。形状は、橢円形状を呈し、断面は扁平で凸レンズ状である。
黒曜石A製。

削器 28, 29共に縦長剝片を利用し、一側縁部に抉入状に刃部を作り出して
(第13図-28, 29) いる。素材打面は線状打面で、石材は黒曜石A製を利用している。29の
器表面および側縁部に自然面を残す。

使用痕ある剝片 30は折断剝片を利用し、両側縁部に刃こぼれが顕著である。素材打面
(第13図-30, 32, 34) は調整され、石材はその他の黒曜石を利用している。

34は縦長剝片の一側縁部に刃こぼれが著しい。素材打面は自然面で、
黒曜石A製の石材を利用している。

32は剝片の頭、胴部を欠損している。側縁部に刃こぼれが著しい。黒
曜石A製。

剝片 33は縦長剝片で、一側縁および先端部に自然面を残す。打面は平坦で、
(第13図-31, 33) 黒曜石B製。

31は折断剝片である。打面は線状打面で、黒曜石A製である。

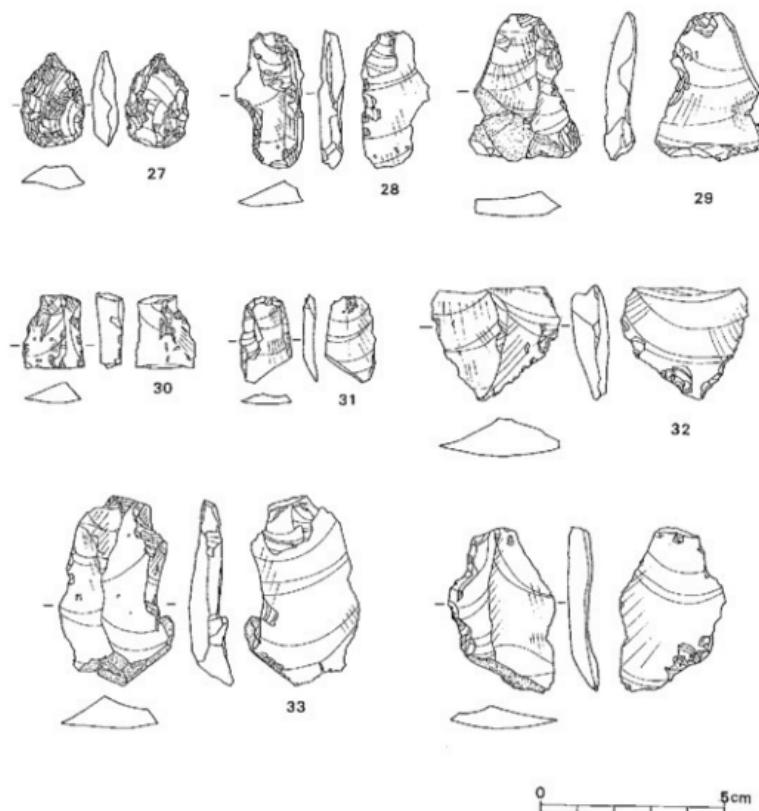
利用石材 出土した遺物は、黒曜石が多く利用されている。下記によって分類し
記載した。

黒曜石は、断口の色調、特徴によって3種類に分け、それに該当しないものを、その他の黒曜石とした。

黒曜石Aは、漆黒色、黒色を呈し、ガラス光沢に富み、良質である。原産地は、腰岳(佐賀県伊万里市)、大崎半島(川棚町)、針尾(佐世保市)が該当する。

黒曜石Bは、灰青色、灰緑色を呈し、バテナーが顕著である。原産地は、淀姫・東浜(佐世保市)、亀岳(西彼町)が該当する。

黒曜石Cは、灰白色、灰色を呈し、ガラス光沢に富む。原産地は、針尾と產地不明なものも含む。



第13図 出土石器(4)・表土層出土

その他の黒曜石は、黒色を呈し、ガスの気泡等の不純物を多く含むものである。原産地は、星鹿半島（松浦市）、熊本県阿蘇地方と考えられる。

註1 長崎県教育委員会、電源開発株式会社 1982「針尾人跡遺跡」長崎県文化財調査報告書 第60号

4. 遺物の出土状況

出土遺物は、第Ⅲ層に縄文時代晩期の土器類17点、石器類15点の計32点と第Ⅱ層に縄文時代晩期の土器類428点、石器類111点の計539点の総数571点を数える。その他に表土層より、土器、石器類が約500点出土している。

遺物集中範囲が第Ⅱ層に3箇所を数える。第Ⅲ層には、11区の遺物遺存状況を除いては第Ⅱ層の遺物集中範囲と重複する分布状況を呈している。また、第Ⅱ層程度には遺物が集中する箇所はない。（今後、周辺地区での調査により、第Ⅲ層の文化層もより明らかになるものと考えられる）

第Ⅲ層出土遺物群 1, 6, 8~11区に出土する。遺物は、石鏃（4）1点、石核1点、使用痕ある剝片（1）1点、蔽石（15）1点、剝片（2）2点、碎片9点と土器片17点の総数32点が出土した。石器の利用石材は黒曜石A製9点、他の黒曜石製2点、安山岩製4点である。

土器類は、縄文晩期の条痕文土器の外反する口縁部（21）、胴部（29, 34）が出土した。第9区の第Ⅱ層出土土器と胴部が接合するものが2例ある（29, 34）。

標Ⅱ-1群 1~3区に位置する。南北に長さ23mの範囲に集中する。

遺物は、石鏃1点、搔器（6）1点、使用痕ある剝片（9, 11）2点、剝片7点、碎片10点、縄文上器片（18, 32, 33, 35, 36, 38, 41）80点の総数101点が出土する。

石器の石材利用は、黒曜石A製11点、黒曜石B製7点、他の黒曜石製1点、粘板岩製1点である。

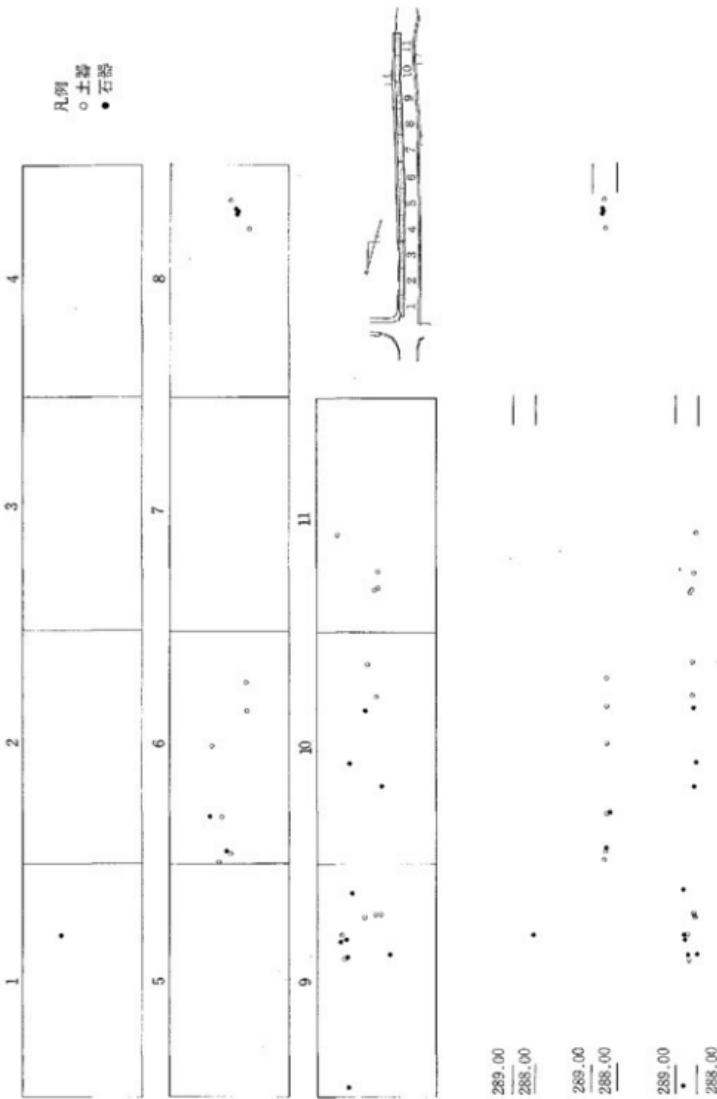
土器類は、条痕文土器で口唇部に丸味をもち、浅い沈線が入る口縁部(18)、胴部(32, 33, 35, 36)、円盤状の貼付底部(38, 41)を出土する。

- 縄II-2群 5~7区に位置する。南北に21mの範囲に集中する。
遺物は、使用痕ある剝片(7, 10)3点、磨石(13)1点、剝片(20, 22, 23, 25)17点、碎片21点、繩文土器片(2~4, 7, 8, 11, 13, 15~17, 19, 22, 30, 31, 40, 42)263点の総数305点が出土した。
石器の石材利用は、黒曜石A製19点、その他の黒曜石製20点、安山岩製3点である。
土器類は、条痕文土器で外反する口縁部(2~4, 6, 8, 11, 13, 15, 19)、刻目突帯のある胴部等(22, 24, 31)、底部(40, 42)を出土した。

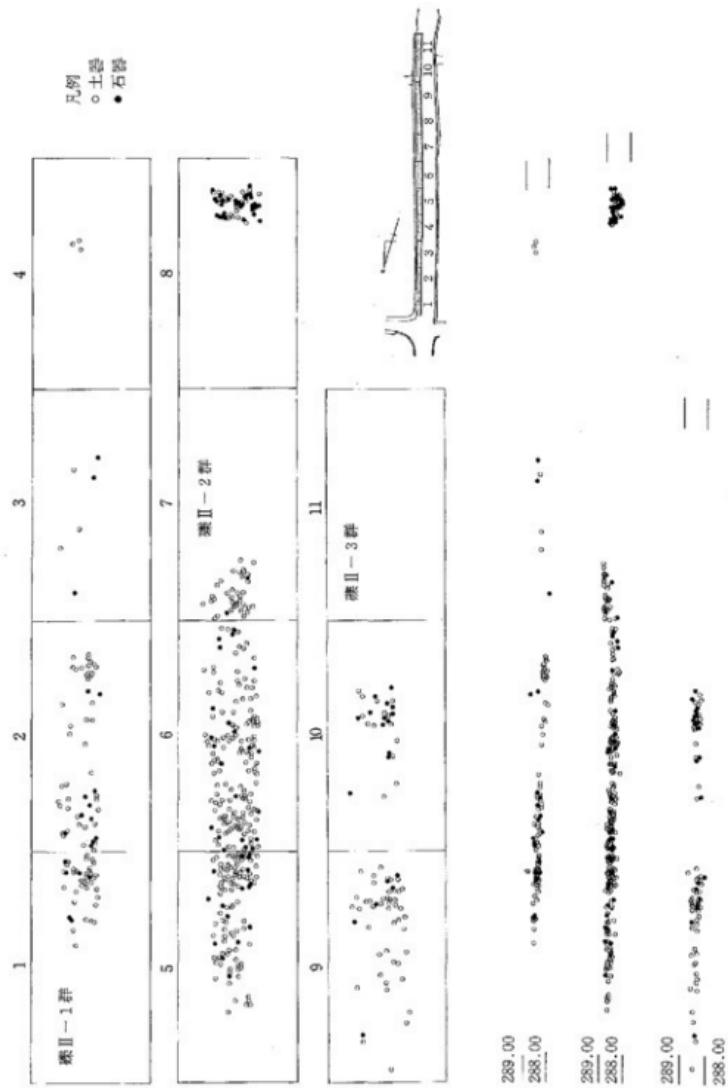
- 縄II-3群 8~10区に位置する。南北に23mの範囲に集中する。
遺物は、石鏃(3)1点、削器(5)1点、使用痕ある剝片(8, 10, 12)3点、磨石(14)1点、剝片(17~19, 21, 24, 26)8点、碎片43点、繩文土器片(16, 23, 29, 34, 37)70点の総数127点が出土した。
石器の石材利用は、黒曜石A製45点、黒曜石C製1点、その他の黒曜石製1点、安山岩製10点である。
土器類は、条痕文土器で外反する口縁部(16)、胴部(23, 37)、底部(39)が出土する。

以上、第II層の遺物集中箇所は3箇所を数えるが、第III層の遺物は第II層の出土状況を重複する傾向を示し、第III層と縄II-3群の土器片が接合する例が見られる。

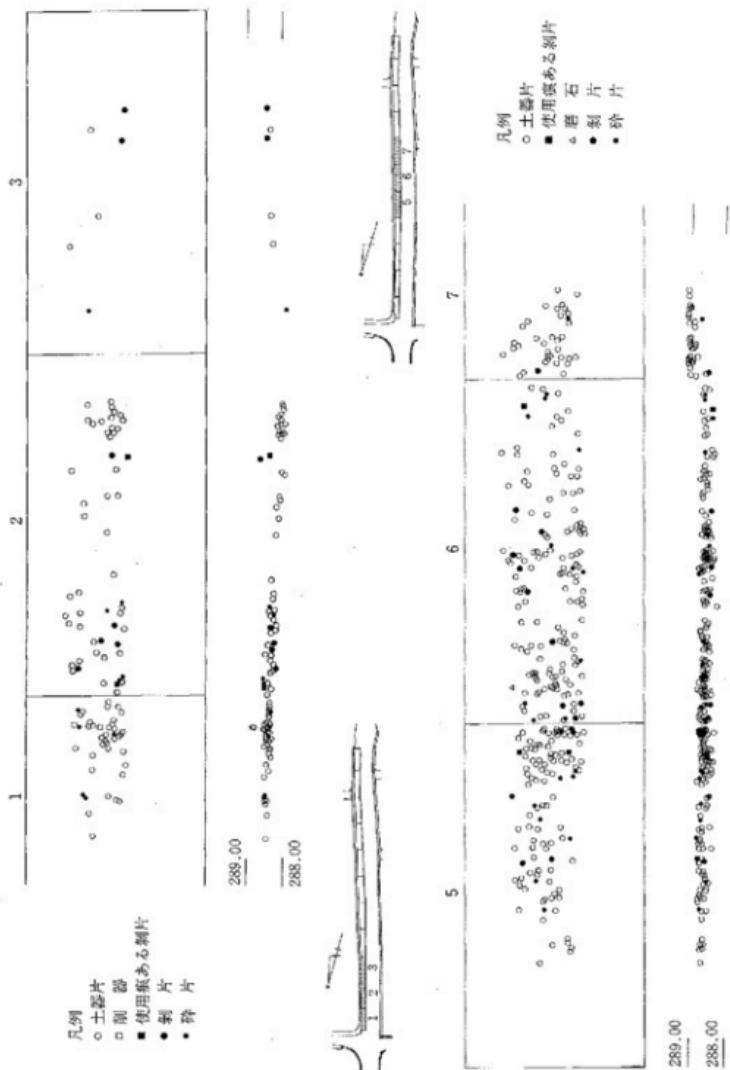
凡例
○ 土器
● 石器



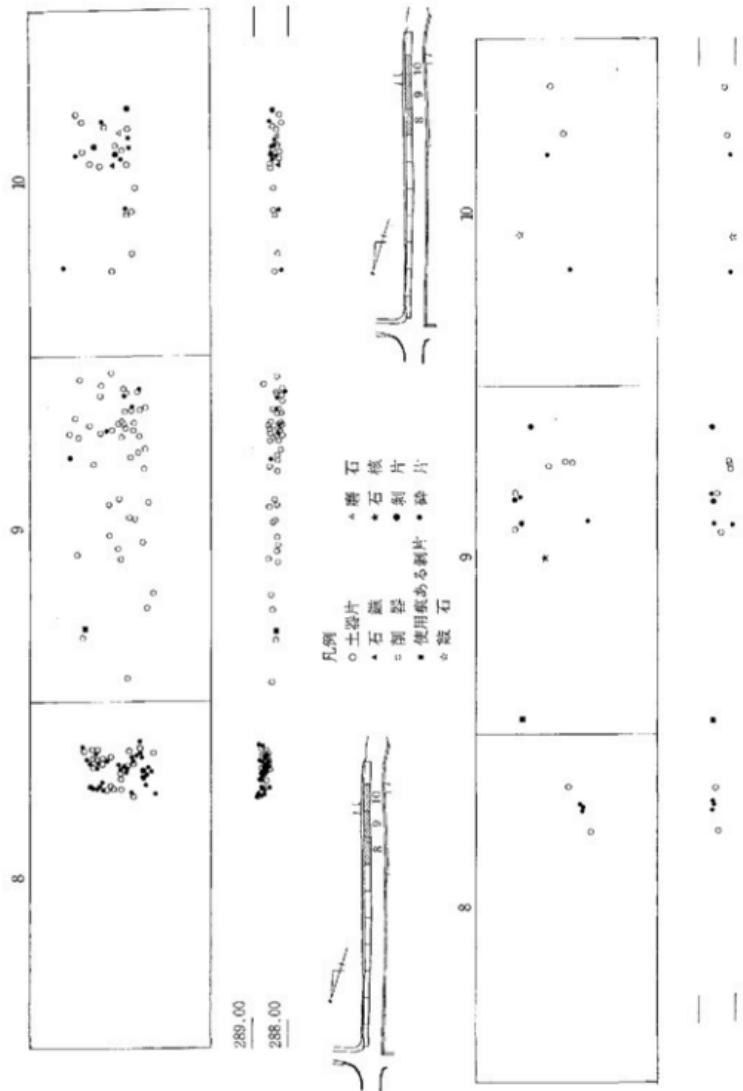
第14圖 遺物分布圖（第III層）



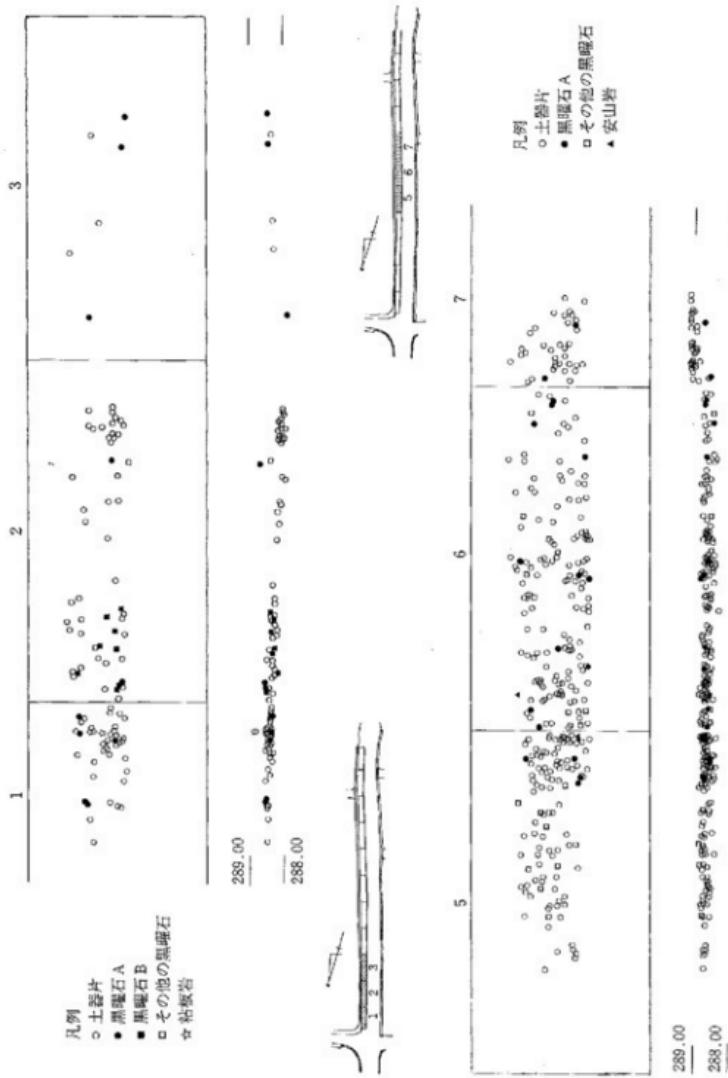
第15圖 遺物分布圖（第二層）



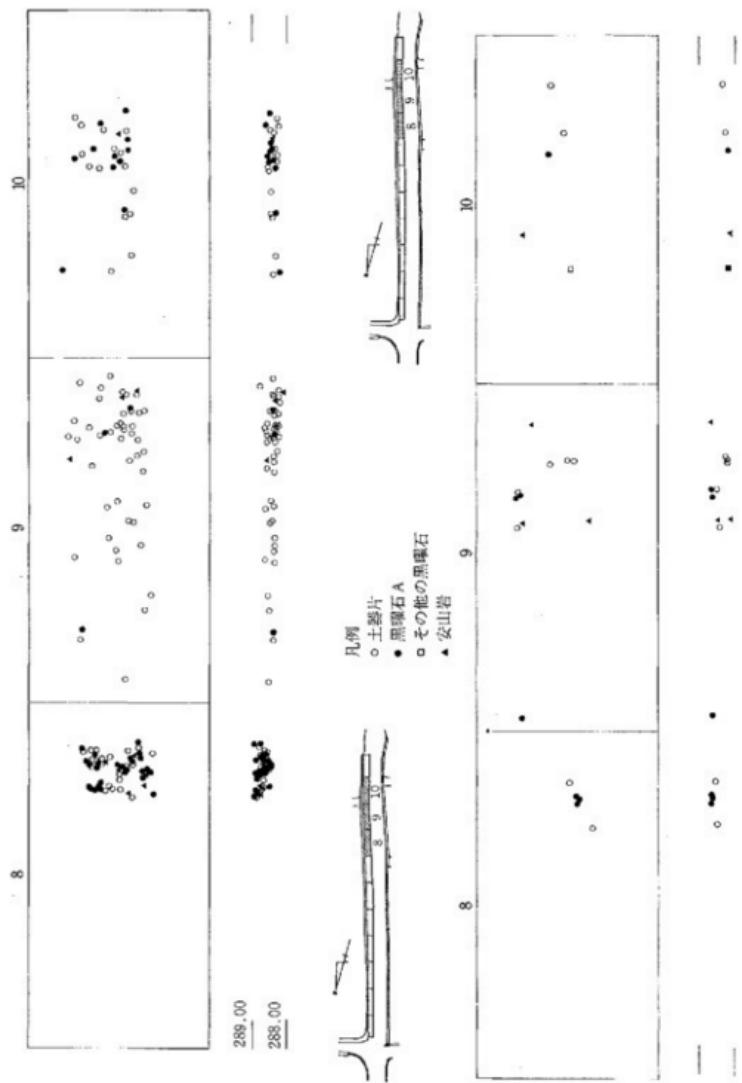
第16図 器種別遺物分布図・1～7区第II層



第17圖 各種別遺物分布圖。8~10区第II層・第三層



第18図 石材別遺物分布図・1～7区第III層



第19図 石材別遺物分布図・8~10区第II層・第三層

V ま と め

出土遺物 繩文時代晩期の土器、石器類が、第Ⅲ層に32点、第Ⅱ層に545点、表土層に500点の計1,077点が出土した。

石 器 主要石器は、石鎚2点、搔器・削器4点、使用痕のある剝片10点、磨石2点、敲石1点、石錐1点、石核1点等の石器類で、扁平打製石斧等の石斧類の出土を見なかった。

利用石材は、ほとんどが黒曜石である。その中でも黒曜石は、A製85%、B製4%、C製5%，その他の黒曜石製6%で、黒曜石A製の利用度合いが多いことが特徴である。

土 器 昭和62年に調査を実施した三会財産区と比較して、遺物出土の層位に違いが認められた。

即ち、今次の調査で土器総数445点の内、Ⅱ層からの出土遺物が428点あるが、前回の土器総数538点の内Ⅱ層からは45点の出土であった。

また、土器についても小片で確定的なことは言えないものの器形および施文により時期的な差が考えられる。

その特色をあげると、精製土器の口縁部内面に沈線を施す2の資料が減少し、口縁内面が丸味をもたずやや平坦ぎみとなっている。また、3・6のように、頸部から肩部への移行に厚みをます。粗製の壺では、9が口縁部にリボン状の突起を付し、器形的には口縁部へ内湾する形態を示している。この他、刻目突帯のある22にはリボン状の突帯からの次の移行形態として進展していくことが考えられる。また、口縁部の沈線をめぐらせた深鉢がなくなり条痕による調整に変化している。

前回の調査区は、繩文晩期前葉から中葉末の時期であったが、今回の調査では繩文晩期中葉から後葉前半頃の資料であろうと思われる。

遺物の遺存状況 遺物は、第Ⅲ層には特に集中する傾向は無く、第Ⅱ層の集中箇所と重層した分布状況を呈している。第Ⅱ層は、縄Ⅱ-1群～3群の3箇所に集中する箇所が検出された。

また、第9調査区で第Ⅲ層出土土器と縄Ⅱ-3群の土器が接合するものが2例と、縄Ⅱ-1群内で石器が接合するものが1例ある。

時 期 第Ⅱ層と第Ⅲ層の遺物群は、繩文時代晩期の黒川式土器（礫石原式土

器) の単純包含層と考えられ、縄文時代晩期の中葉～後葉前半頃の時期と考えられ、両層の時間的な相違は遺物の上からは明確ではない。

これらのことから、層位的に2つの包含層が検出され、同一の文化層として捉えられなくもないが、今回の発掘調査は幅約3mと長さ約100mと南北に細長い道路改良工事箇所の調査であったので、東西に拡がる文化層の範囲(規模・内容等)については不明であるので、今後の周辺地域での調査で明らかになるまで2つの包含層として捉えることにしたい。

表3 出土石器の石材別・層位別一覧表

器種		石	插 器 ・ 削 器	使 用 痕 ある 剝 片	磨	敲	石	剥	碎	石	計
層位	石材				石	石	核	片	片	錐	
表 土 層	黒曜石A	2	2					1		1	6
	黒曜石B							1			1
	黒曜石他							1			1
	小計	2	2					3		1	8
第 四 層	黒曜石A	1	1	4				11	52		69
	黒曜石B			1				4	2		7
	黒曜石C			1							1
	黒曜石他			1				10	9		20
層	安山岩				2			2	9		13
	その他		1								1
小計	1	2	7	2				27	72		111
第 三 層	黒曜石A	1		1				1	1	6	10
	黒曜石B										
	黒曜石C										
	黒曜石他								1		1
	安山岩						1		1	2	4
小計	1		1		1	1	1	2	9		15
合計	2	4	10	2	1	1	32	81	1	134	

- 参考文献 古田正隆「筏遺跡」百人委員会文化財報告書 第4集 百人委員会 1974
- 古田正隆「中田遺跡図録」百人委員会文化財報告書 第8集 百人委員会 1977
- 町田利幸・浦田和彦「礫石原遺跡」鳥原市文化財調査報告書 第4集 鳥原市教育委員会 1988
- 古田正隆「礫石原遺跡」百人委員会文化財報告書 第7集 百人委員会 1977
- 安楽 勉・藤田和裕「朝日山遺跡」小浜町文化財調査報告書 第1集 長崎県小浜町教育委員会 1981
- 古田正隆「山の寺桶木遺跡」百人委員会文化財報告書 第1集 百人委員会 1973
- 古田正隆「重要遺跡の発見から崩壊までの記録」百人委員会文化財報告書 第3集 百人委員会 1974
- 宮崎貴夫・伴耕一朗「肥賀太郎遺跡」「長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅲ」
長崎県文化財調査報告書 第97集 長崎県教育委員会 1990

図 版



遺跡近景（北側より）



遺跡近景（南側より）

5・6・7区
第II層遺物出土
状況（北側より）



9区 第II層遺物出土状況



6区
石群露出状況



4区 石組および土層堆積状況



調査状況



TP-5 第II層遺物出土状況



TP-4 第II層遺物出土状況



TP-5 第III層遺物出土状況



TP-4 第III層遺物出土状況



TP-3 第II層遺物出土状況

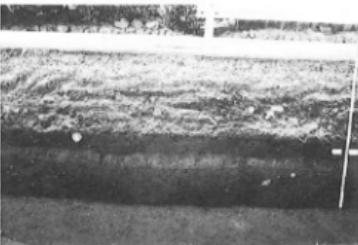


TP-2 土層堆積状況（西壁）



TP-1 第II層・第III層遺物出土状況（南より）
範囲確認調査（遺物出土状況・土層堆積状況）

2区 西壁面



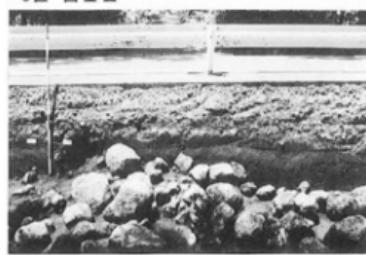
6区 西壁面



8区 西壁面



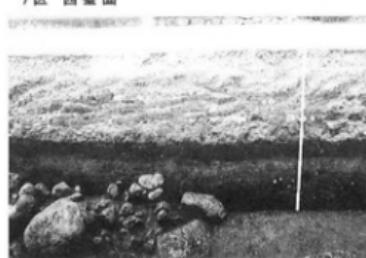
10区 西壁面



7区 西壁面



2区 西壁面

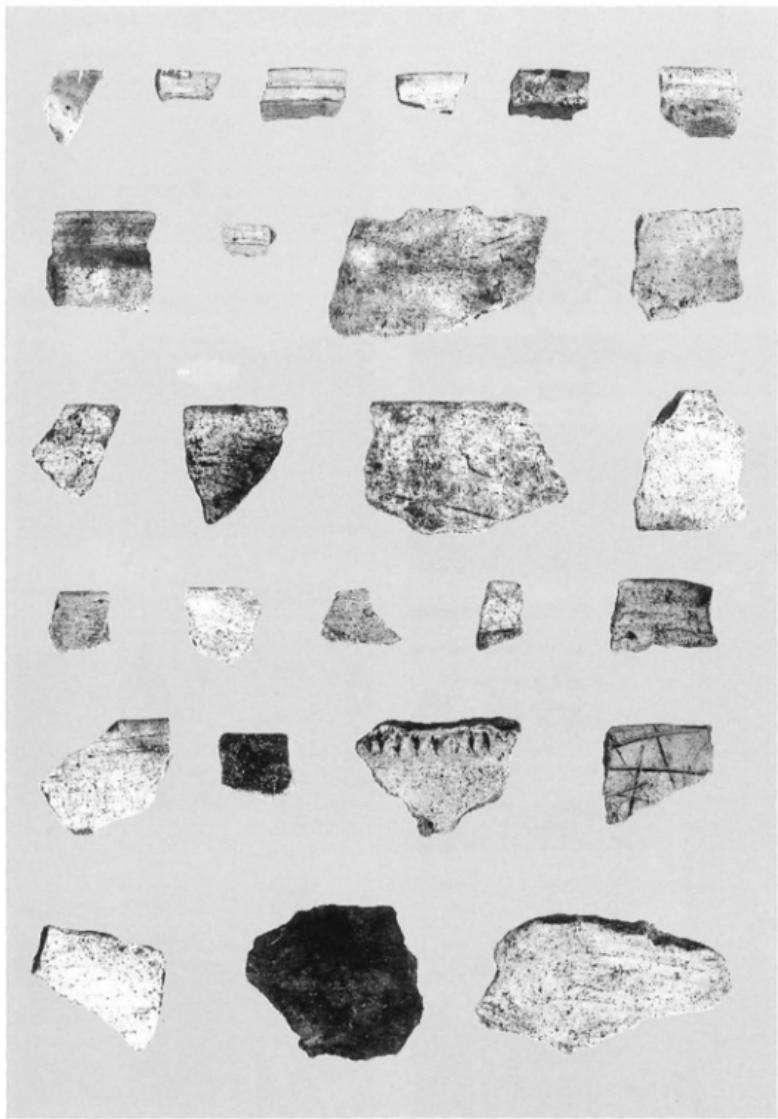


6区 西壁面

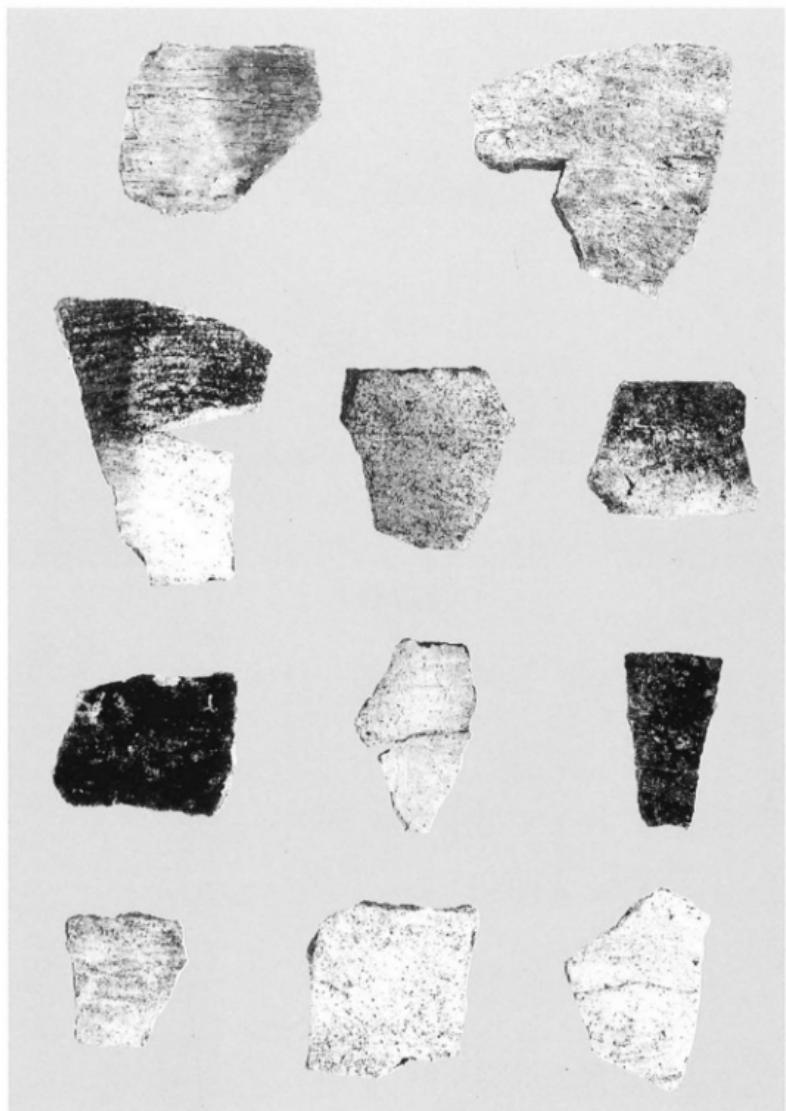


1区 西壁面

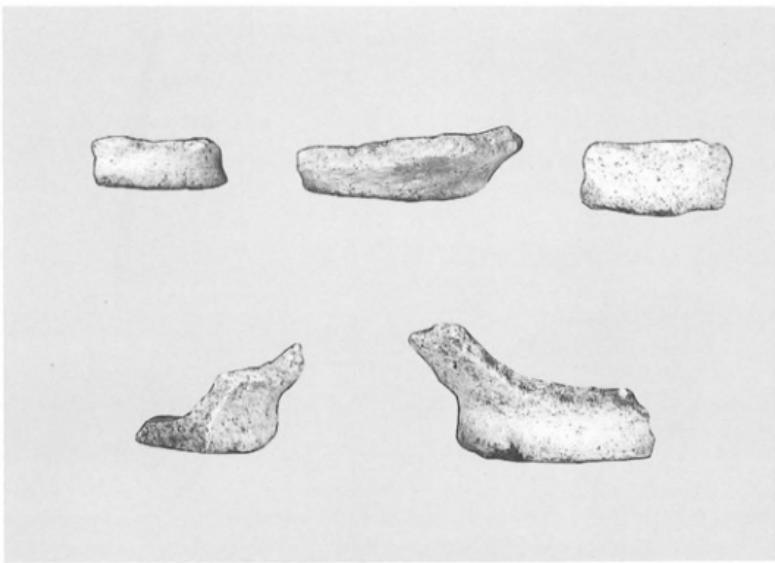
土層堆積状況



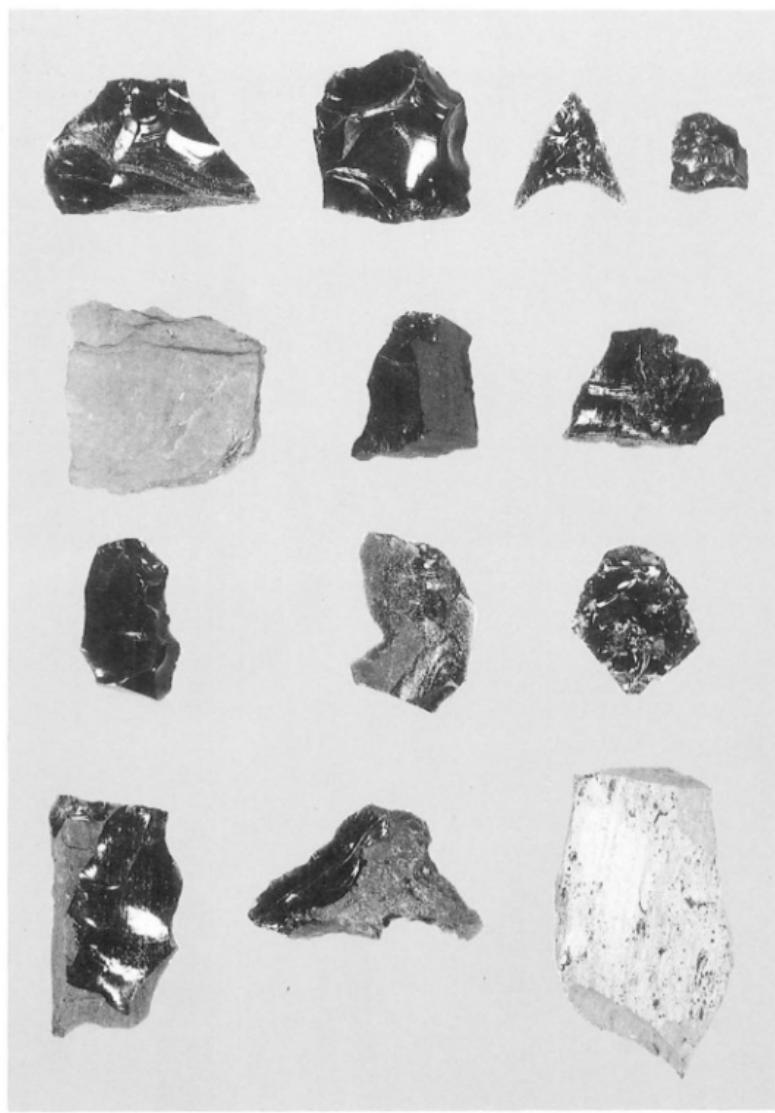
出土土器 (1)



出土土器 (2)



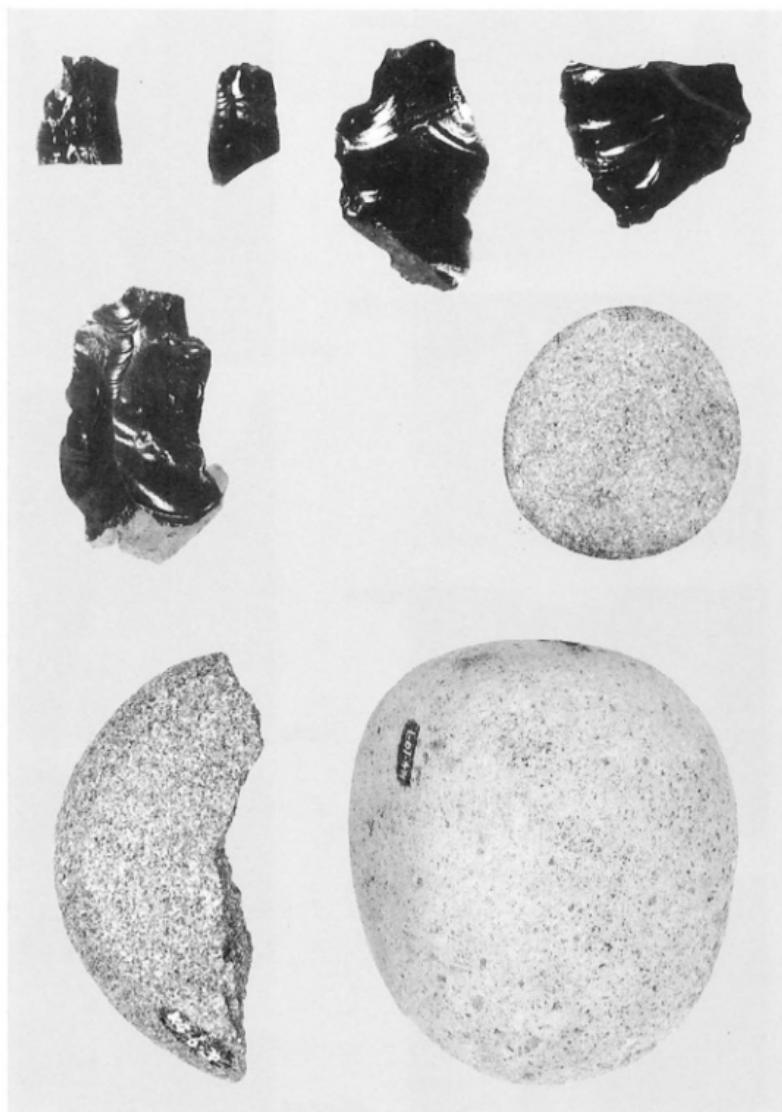
出土土器 (3)



出土石器 (1)



出土石器 (2)



出土石器（3）



調査風景



調査風景



調査風景



調査風景



調査風景



調査風景



範囲確認調査

調査風景

長崎県文化財調査報告書 第100集

碑 石 原 遺 跡

—県道愛野…島原線改良工事に伴う
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書—

平成3年3月

発 行 長崎県教育委員会
長崎市江戸町2-13

印 刷 S K 印 刷
長崎市宝栄町18-15